

# 朝の館内放送

令和3年10月4日

おはようございます、市長の中村健です。

実質的に日本の総理大臣を決めることになる、自民党の総裁選が行われました。

結果として、岸田文雄さんが総裁に選出されることとなりましたが、今回の総裁選の見方の一つとして、立候補した4人の中に女性候補が2人いたということがあります。

1955年に結成され、政治の世界で戦後の日本を担ってきた自民党の歴史において、これまで総裁選に立候補できた女性候補は、現東京都知事である小池百合子さんだけでした。

日本の社会構造や人の意識がそうさせていた面が大きいと考えますが、実際に4人の候補者の討論会での様子を見てみると、女性だから良いとか、女性だから悪いということは決してなく、純粹に、女性であるがゆえにこうした場でなかなか活躍できなかつた日本社会がとても残念に思いました。

一方、国際社会に目を向けると、16年間に渡りEUを牽引し、まもなく引退をするメルケル首相は女性ですし、他にもフィンランド、デンマーク、ニュージーランドなど、多くの国で女性首相が活躍しています。

もちろん、企業経営などの場でも日本以上に女性活躍が進んでいるのは言うまでもありません。

そもそも、「女性活躍」という言葉自体をスローガンとして掲げなくてもよくな

るよう、日本でも、政治の世界でのリーダー層に限らず、様々な分野、様々な組織団体において、もっと意思決定の中枢に女性が関わられるような形が望ましいと考えています。

これまで、女性の社会進出という意味では、「出産」や「育児」が現実的にそれを阻んできた大きな要因であったと思いますが、育児を経験することで得られる学びや気づきは少なくなく、逆に大きな強みになり得るものであると考えています。

男性の育休取得を推進する大きな理由の一つでもあります。

西尾市においても、性別や、結婚・出産・育児の経験などによって活躍の機会が阻害されることのない運用を心がけてまいりますので、よろしく申し上げます。

以上で、朝の館内放送を終わります。